

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 Aユニット)

業所番号	0670400951		
法人名	生活クラブやまがた生活協同組合		
業所名	グループホーム結いのき		
所在地	山形県米沢市花沢町2695番地の4		
評価作成日	令和3年11月20日	開設年月日	平成16年2月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活クラブやまがた生活協同組合が行ってきた「助け合い活動」たろう所の理念を継承し、市民参加型福祉を実践している。建物の設計から運営に至るところまで「結いのきグループを支える会(自主ボランティア団体)」の協力を得て、より良い介護が継続できるよう共に歩んでいる。コロナ禍により職員の健康状態の把握やホーム内の除菌などにも留意し、感染者を出さないよう日々努力している。□
□

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 3年 12月 17日	評価結果決定日	令和 4年 1月 6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生活クラブやまがた生活協同組合の助け合い活動の拠点「たくろう所」の理念を、そのままグループホームの理念とし、各ユニットに提示していつでも職員が再確認できるようにし、ユニット会議のレジメにも記入している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2021年もコロナ禍により、地域の行事も中止になっており、交流はなかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により交流は遠慮した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍であった為、運営推進会議メンバーに結いのき状況の報告をし、意見・質問を提出してもらい、事務局でまとめた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍により、市の相談員の来訪はなかったが、運営やサービスに対するアドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束適正委員会(3か月に1度)や職員の研修を必ず実施し徹底している。夜間の玄関施錠はしているが、日中は自由に出入り出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の精神状態と身体状態を確認し、職員間で理解、共有することで、虐待につながらないように注意し防止している。また、身体拘束適正委員会を設け虐待や拘束禁止に取り組み、研修など学ぶ機会を作り、日頃から意識付けをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に代表者等が経験した知識を、ミーティングなどで「事例」として話し、職員間での理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には、入居者ご本人とご家族からの聞き取りの場を設け、十分な説明を行っている。解約時には、退去時にかかるその後の経費についても説明し、より良い選択が出来るよう支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や必要な時に応じて、ご様子を報告し、都度要望も伺っている。運営推進会議時に、ご家族のご意見を頂き参考にしている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニットミーティングで職員が改善してほしいことを代表者に伝えることが出来ている。ミーティングの他にも都度相談が出来、助言を受けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	気がねなく勤務の希望や有給休暇を申請することが出来ている。賞与や介護職員処遇改善加算も適正に支給されている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会が外部の研修会の情報を入手し、希望者が研修の受講を出来るように体制を整えている。コロナ禍であるので、リモート研修やDVD研修を主に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今年もコロナ禍だったため直接の交流はなかったが、リモートでの交流を実施している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の訪問調査で本人のこれまでの生活歴を含め、現在ご本人・ご家族の困っていることや希望を伺い、ケアプランを立てている。また、今までの暮らしが継続できることを大切にし、生活リズム、使用していた物なども用いて安心した暮らしにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	調査時の情報だけでなく、入居前でも、不安なことや希望を伺い、要望に応じられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と思える支援が円滑にすすむよう、情報に応じて医療(主治医・看護師・病院)の助言を受け、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の経験や歴史を良く理解し、「出来ること」を行なってもらうことで、やりがいを感じてもらい、共に支え会えるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の状況の報告だけでなく、ご本人の思いをご家族に説明し、生活に必要な物を準備して頂く等、関わりを持って頂けるよう支援している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの関係もあり、外出・家族以外の方との交流は難しかったが、リモートや短時間、窓越しでの面会で出来るだけ会って頂き、写真を飾る等対応した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係、その方の状態を考慮し、居間で過ごす席の配置をその都度行なっている。場合により、職員が間に入り、円滑な関わりが持てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了した入居者家族に対しても、窓口を開放しているので、いつでもフォロー出来る体制を構築できている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望や訴えの際は、出来るだけ希望に添うよう職員間で調整を図りながら対応している。意思の表現が困難な方には表情や声などから推察し、心地良く過ごせるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントの段階でご本人やご家族から出来るだけ詳しく状況を伺い、馴染みの家具や私物を持って来て頂いて整えた居室で無理なく過ごしてもらえるよう配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の年齢や日々の心身状態に合わせて、出来る事を尊重しながら生活できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで一人一人の状況を共有し問題点を検討しながら、3ヶ月ごとのモニタリングで介護計画を見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のバイタル、食事、排泄、その他の言動や様子を詳しく記録し、職員間で情報を共有し、より良いケアを行うように活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナ禍でユニット散策・外出・町内会行事への参加も出来なかったが、近隣の方に外回りの草刈りを支援して頂き、ホーム周りの散歩を気持ち良くすることが出来た。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>主治医には月1回の往診の他に、変化が見られた際はFAX等相談、受診や往診を受けることで早期回復が図れている。</p>			
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師出勤日には、一人一人の状況を報告し必要なアドバイスを受けている。皮膚トラブルの対応やリハビリ体操の指示を受けたり、受診が必要な状態の判断を相談することで適切に受診できている。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は病棟看護師、相談員と連携を図り、より良い治療が受けられるよう、ホームでの情報を提供している。退院時のカンファレンスには生活に支障がないように細部まで聞いてケアの検討に活かしている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化に応じて、終末期の理解を得るため、主治医に相談したり、説明の場を設けている。また体調の変化に伴い、ご家族の意向を伺いながらケアプランを変更し、その後の方向性を共有し、出来るだけホームで看取りがかなうよう主治医、ホーム看護師の指導を受けながら支援している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の講習会に参加し、職員全員が救急対応やAEDの使い方を学んでいる。急変が予想される方においてはアプローチチャートを準備し対応している。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練の計画と実践を行っており、消防署や担当業者の指導を受けている。年1回豪雨災害を想定した避難訓練を行って、事故なく安全に避難できるように、実践し課題を見つけ検討している。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの人生や環境・思いを大切にされた声かけを、入居者一人一人に合わせて行いコミュニケーションを図っている。他入居者への言動が不穏やストレスにならないよう、職員が気配りし間に入り対応している。			
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いに耳を傾け、なかなか思いを口に出せない方には時間をかけて寄り添い、少しずつ本心や心情が聞き出せるよう配慮している。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその日の体調や気持ちに合わせた過ごし方を尊重し対応している。レクリエーションには、その方の意思・気分を尊重しながらお誘いし、ご本人が楽しめることを大切にして支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選ぶことができない方には、声掛けし、職員と一緒に選ぶことで着たい服を着て頂いている。またご家族の好みの服を着て頂くこともある。理容師による定期的な散髪も行なっている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の説明を行ない配膳している。ミキサー食の方には1品1品料理の説明をして想像出来るようにしている。会話の中に食事の話題を入れたり、行事食では季節を感じてもらっている。片付けを手伝って頂いたら、感謝の言葉を伝えている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嚥下機能に合わせ、お粥やマッシャー食・刻み食、さらにはとろみ剤の調整もその方に合わせるよう配慮している。栄養、水分の摂取不足に関しては、その人に合った物を提供(医薬品の栄養補助食品も含む)することで補っている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔を保つため、歯磨きやうがいを積極的に勧め実践している。また自力で歯磨きできない方の口腔ケアは、職員が介助している。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者の排泄リズムを把握し、それに合わせた誘導を行なっている。トイレに誘導し、下着の上げ下げ等を見守りながら行って頂いている。紙おむつ利用者であっても、座位が保てる方は、便座に座って頂き排泄する方もいる。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分(ポカリ・お茶・野菜ジュース・乳製品等)の摂取を勧めている。また必要な場合は主治医や看護師に相談し助言をもらいながら、下剤・座薬を使用し排便コントロールを行なっている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望、体調、気分に合わせてタイミングを取りながら、ゆったりと快く入浴できるよう努めた支援をしている。体力が弱くなっている方の入浴は看護師在中の時に入浴をするなど、体調に気を配っている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活習慣を大切にしつつ、精神状態・睡眠状態、体調に合わせた声掛けを行ない休息を促している。疲労が表れている方には、声掛けし都度休憩をうながしている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の「お薬情報」を作成して薬の目的や副作用、用量について理解するよう努めている。必要に応じ、主治医・看護師・薬剤師に相談したり助言を求めたりして的確な服薬ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し・畳み方、食器洗い・拭き、モップによる床拭き、新聞折り等、可能な入居者の方に行なって頂いている。また、編み物・俳句など完成したものを展示している。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出はほとんどできていない状況である中、ホーム周りの散歩をし四季の花々を楽しんでもらったり、日向ぼっこをしたりして出来る支援を継続している。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者の場合お金の管理が難しいため、家族の了承を得て、管理や請求をしている。また家族了承の上、入居者が財布を持ち、自らが管理している方の場合その方がお金を使用した時は了承を得て、小遣い帳に記入している。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望により、電話の仲介や取次を行なうこともある。手紙のやり取りができるよう支援し、手紙の投函を代わりにすることもある。家族からの手紙を説明しながら代読させて頂くこともある。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット玄関・廊下・居室には、季節を感じとれる装飾や楽しかった行事・催し物の写真を展示している。今年はコロナ禍で外出が出来なかったため、誕生会などの写真が多い。入居者の作品も展示している。居間と食堂は大きな共有スペースとなっており入居者の状況（車椅子等）や動線を考慮して机や椅子を配置している。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の性格・社会性・認知度などを考慮して食席を決めているが、TVを観たりお茶の時には自由に席を移動する時もある。外を眺められる場所にソファや椅子を設置し、談笑したり、外の花を観たりなど、季節感を感じられるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅感があれば混乱を招きにくくなるので、自宅で使用していた物を居室に持ち込む提案をご本人やご家族にしている。設置はご本人、ご家族と相談して決めているが、使いやすさと安全を優先し、一部配置を変更したり介護度に合わせて工夫している。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子利用者には、洗面台下に足が入るようにしている。入浴は利用者に合わせ、踏み台、滑り止め、手すり等を設置している。トイレ床やベット横に滑り止めや椅子等を置き安全に努めている。移乗時L字型のベット柵を使用してスムーズに移乗出来ている方もいる。		